

2021 年度東京都市大学附属中学校

卒業式式辞

2022 年 3 月 18 日

校長 皆川 勝

中学校の 3 年間で本校で過ごされて、卒業されることに祝意を表します。

3 年間の中学校での義務教育として、本校における知識・学識の習得、人間的な成長、部活での技術・知識の習得を経て、さらに 3 年間の高校生活へと人生のステップを進めることとなります。

本校は 6 年一貫であり、中学校 3 年と高校 1 年は中期ということでつながりではありますが、義務教育を終えることの意味は大きいものがあります。

義務教育を簡単に言うと、ご両親など保護者の方には子供の教育をする権利がある。

憲法では保護者は皆さんに教育を受けさせる義務がある、その他の法律で小学校、中学校に就学させる義務があるとなっています。

一方、高等学校は、生徒が自ら望んで通うところです。

これも簡単に言うと、ご両親には子供の教育をする権利があるが、義務はない。生徒の皆さんには、「その能力に応じて」、教育を受ける権利があるが、義務はありません。

ですから、高校では、それを受ける能力がある限り、教育を受ける権利があることとなります。問題は、「その能力に応じて」という点です。

高校への入学を皆さんは許可されていますので、今の段階ではその能力はあると判定されているわけです。

しかし、余裕のある人はよろしいんですが、余裕がない人もいるわけですね。ですから、入学後も、適宜、定期試験などが行われて、皆さんの能力が測定されます。

そして、年度末には進級できる能力があるかどうかを判定されます。万一、能力が不十分となれば、別の道を探すこととなります。そうならないように、先生方が愛情をもって厳しくご指導されますので、気を引き締めてゆきましょう。

皆さんは、中高一貫教育のなかで、すでに高等学校の課程の学習に進んでいるので、中学校との科目内容の違いはすでに体験済みです。ですが、高校 2 年、3 年の課程では、個人の選択の幅が広がることとなります。

したがって、今後は、大学等の自分の進路やその先の社会人への道筋を想定しながら、これまでより一層、自分の考えをしっかりとって、自立して、個々の選択をして、それに基づいて学業、部活、学校生活を営んでいってほしいと思います。

教育を受けるために必要な能力とは、知識レベル、スキルのレベル、あるいはそれを高めることのできる力です。しかし、そのほかに、校則を守る、遅刻をせず、真剣に学ぶ、他の生徒といさかいを起こさない、ずるをしない等、学習態度・学校生活の態度に問題のないことも含まれます。

4月に私が本校に赴任した時から、始業式や終業式、学校だより等で皆さんにお伝えした内容は、おおむね以下の通りでした。

4月 良心に基づいて行動することの「選択の自由」こそが人間の間たる所以である。

7月 知識 (Knowledge)、スキル (Skill)、態度 (Attitude) が能力の3要素。  
学ぶ態度 (How do you learn?) は「価値観」 (Why do you learn?) から生まれる。

9月 人任せにせず、周囲とコミュニケーションをとって、率先して行動する。

(“The Story of Everybody, Somebody, Anybody and Nobody” からの教訓)

12 月 学校という組織の一員であるという自覚と責任を忘れないために制服はある。

1 月 人間は、自分の周囲の方々やコミュニティー・社会を構成する他の人びとやその組織に関与することによって、この世の中で唯一無二の価値ある者として存在している。

まとめると、「本校の一員であるという自覚と責任をもち、学習や部活などの諸活動を通じて知識とスキルを磨きつつ、自らの価値観を確立して学ぶ態度を高めるとともに、周囲の方々やコミュニティー・社会を構成する他の人びとやその組織と関わりながら、良心に基づいて率先して行動してほしい。」ということになるかと思います。

さらに一言で言い表すならば、「真の人間であるために最善を尽くす」ということではないかと思います。

人間以外のほとんどの動物のように本能のままに行動したり、一部の心ない人間のように自分の欲望を満たす目的のために、他の人間を虐げたりすることなく、と付け加えたいと思います。

この1年間、生徒の皆さんと保護者の方々が、本校の生徒であることに喜びと誇りを感じられるよう祈念しながら、先生方と協力して校務にあたってきました。

幸いにして、保護者の方々のご理解と寛容、生徒の皆さんの素直な、そして率直な態度に感銘を受け、年度を終えることができたことに感謝しております。

昨年2月に、前任者の長野先生が急遽、退職されることが決まり、1年限りのショートリリーフとして校長職をお引き受けしましたが、今年度で退職をいたします。大学教員から未経験の中学高校の教員の一員として受け入れていただいたことに感謝いたしております。

生徒の皆さんには、これからもいろいろな迷いや悩みを克服しながら、しっかりと前に進まれることと信じています。

相川先生より、「今週の一言集」をいただきました。学年通信を通じて先生方からこの3年間に贈られた114の一言です。

ぜひ、いつでも取り出せるところにおいて、悩んだり、迷ったりしたとき等に、人生の道しるべとされるとよいと思います。先生方の生徒の皆さんへの愛情がにじみ出ていると感じました。

私からは、生徒の皆さんひとりひとりの人生は、価値のある人生なのだという  
思いを込めて、

「一度目の人生の失敗を繰り返さないための、二度目の人生であるかのように  
生きなさい。」

という言葉をご贈りしたいと思います。

一度死んで、2 度目の人生であると思って生きている人間はいないと思います。  
失敗はだれしもあります。最善を尽くして、ベストの選択をしたと思っても、  
間違えることはあります。ですが、一度の失敗は許されるが、2 度同じ過ちを繰  
り返してはならない、とも言われます。

ですから、まるで一度目の人生では失敗をしてしまったが、今は二度目の人生  
で、二度目のチャンスを与えられたかのように、失敗を繰り返さないようにし  
ましょうということです。何事もよく調べ、よく考えて、先生方や周りの方の  
意見もお聞きして、正しい判断をするように心がけてゆきましょう。それだけ  
慎重にということです。しかし、いったん決断したら、失敗を恐れず大胆に行  
動していただきたいとも思います。

以上で、中学校の卒業式にあたっての校長式辞といたします。

以上